

1. 学生生活アンケート全体結果について

回答率

全学の回答率は26.2%、学科別では臨床心理学科37.8%、臨床福祉学科37.5%、生命医科学科31.2%、薬学科28.5%、視機能療法学科25.0%、動物生命薬科学科22.6%、言語聴覚療法学科16.7%、臨床工学科9.1%、スポーツ健康福祉学科6.3%、作業療法学科6.1%でした。

「プロフィール」設問 1～5

「設問2 学年」別における回答の割合は1年生32.5%、2年生19.6%、3年生14.1%、4年生17.0%、5年生8.0%、6年生が8.7%でした。前年度と比較して1年生の回答率が上がり3・4年生は下がりました。

「設問3 性」別に関しては、男性が29.3%、女性が69.5%でした。前年度と比較して女性の回答率が高くなっています。

「設問4 通学手段」は自動車が47.6%と最も高く、次いでバスが24.1%、バイクが12.5%、自転車が9.6%の順でした。前年度と比較してバスが増加しバイクと自転車の比率が下がりました。今年度は1年生の回答率が高いことが影響していると思われます。

また、「設問5 通学時間」は30分以内が80.7%で、次いで30～60分が12.2%でした。前年度との差はありませんでした。

「大学生活について」設問 6～26

「設問6 講義以外での生活サイクルの中心」は自宅自習が25.4%、次いで学内自習が20.6%、アルバイトが17.4%でした。前年度と同様の結果でしたが、ボランティア活動が8.1%から1.0%に低下していました。

「設問7 クラブやサークル活動の頻度」は、全くしていないが81.4%と高く、週1～3回が6.8%、月に数回が5.5%でした。前年度と同様の結果でしたが、全くしていないの比率が6.3%増加し、週に1～3回や週に4～6回の比率が低下していました。

「設問8 アルバイトの頻度」は、全くしていないが51.8%で半数を占め、次いで週1～3回が25.1%、週4～6回が10.9%、年数回が7.4%でした。昨年度に比べて、週に1～3回が減り週に4～6回が増加していました。

「設問9 入学前後に本学のイメージ」は65.0%の学生で変わっていないものの、17.7%の学生が悪くなったと回答し、17.0%が良くなったと回答していました。昨年度と比べて良くなったの比率がやや増加しました。

「設問10 大学キャンパス内で主にいる場所」は、72.0%が講義棟でした。その他を除くと図書館が8.4%、食堂が7.1%でした。昨年度と比べて講義棟と図書館は減少し、食堂とその他が増加していました。

「設問11 休日・長期休暇の過ごし方」では、帰省が51.4%と最も高く、次いでアルバイト37.9%でした。昨年度と比べて帰省が増加し、アルバイトは減少していました。

「設問12 学費どのように工面していますか」は、親・親戚からの援助が78.5%、奨学金が56.9%、アルバイトが16.4%でした。昨年度と比べて、親・親戚からの援助と奨学金は増加し、アルバイトは減少していました。

「設問 13 一人暮らしをしていますか」は、68.5%が一人暮らしで、家族との同居が 27.0%でした。昨年度と比べて一人暮らしが減少し、家族との同居が増加していました。

「設問 14 家族と同居、親戚等と同居している場合の生活費/月」は、3万円未満が 32.6%、5～10万円が 24.7%、3～5万円が 23.6%でした。昨年度と比べて、3～5万円が減少し 3万円未満が増加していました。

また、この場合の「設問 15 生活費はどのように工面していますか」は、親から親戚から貰う 64.0%、アルバイト 41.6%、奨学金 18.0%の順でした。

「設問 17 一人暮らし・友人と同居の場合の家賃、水道光熱費を除いた生活費」は、親から貰うが 68.8%、奨学金 42.3%、アルバイト 34.4%の順で、家族等との同居に比べて奨学金の比率が高くなっていました。一方で、昨年度と比べると奨学金は減少し親から貰うが増加していました。

「設問 16 一人暮らしをしている場合の生活費/月」は 3～5万円が 48.4%と最も高く、次いで 1～3万円が 27.9%、5～10万円が 19.5%でした。昨年度と比べると、3～5万円は増加し、3万円未満は減少していました。

「設問 18 好きな講義・実習はいくつありますか」は、2～4つとの回答が 50.5%、1つが 10.0%、5つ以上が 8.7%である一方で、なしが 29.6%でした。昨年度と比較すると、なしの比率は減少し、5つ以上と 2～4つの比率が増加していました。

「設問 19 大学生活での悩み」は、勉強や成績のことが 56.6%、進路や就職のことが 44.1%と高く、友人関係 18.3%、経済的問題 16.7%、健康の問題 12.5%、同級生との関係 10.9%でした。悩みはないとの回答したのは 22.5%でした。この結果は昨年度とおおむね同様でした。

「設問 20 悩みの相談相手」は、友達が 83.8%、親・兄弟姉妹等の身内が 62.7%と高い回答がありました。教職員関係では、チューター教員が 30.7%、チューター以外の教員が 10.0%、学生相談室が 2.9%、事務職員が 0.8%でした。昨年度と比べると身内への相談は減少し、チューター以外の教員が増加していました。

「設問 21 休学や休学したいと思ったことがあるか」は 23.2%があると回答し、昨年度と比較して 2.5%増加していました。

「設問 22 休学の理由、休学したいと思った理由」は、心身の問題が 43.1%、勉学の意欲の喪失が 23.6%、学力の問題が 15.3%でした。昨年度と比較すると心身の問題が 18.5%増加していました。

「設問 23 留年経験」は、10.0%があると回答しました。昨年度と比較すると 3.5%減少していました。

「設問 24 留年した場合に大学に何をしたいか」については、経済的支援が 34.9%、学力の支援 28.4%、心身の支援 13.8%で、昨年度とまったく同じ結果になりました。

「設問 25 退学を考えたことがある」は、17.7%があると回答しました。

「設問 26 退学を考えた理由」は、心身の問題が 23.6%、勉学意欲の喪失が 21.8%、経済的問題が 12.7%、進路に疑問が 12.7%でした。昨年度は身内の問題の比率が 27.0%ありましたが今年度は 1.8%に減り、心身の問題が 10.9%、勉学意欲の喪失が 9.8%増加していました。また、教員との問題も 5.5%増加していました。

「自主学習について」設問 27～29

「設問 27 平日（講義以外）の 1 日平均勉強時間」は、30 分～60 分が 33.4%と最も高く、60～120 分が 26.0%、120 分以上が 21.2%でした。一方、30 分未満が 13.5%、0 時間が 5.5%ありました。昨年度と比べると、60～120 分が減少し 30～60 分が増加していました。

「設問 28 休日の 1 日の平均勉強時間」は、120 分以上が 34.7%と最も高く、60～120 分が 27.3%、30～60 分が 20.6%でした。一方で 30 分未満は 10.9%、0 時間は 6.4%でした。昨年度と比べると 120 分以上が減少し、30～60 分、60～120 分が増加していました。

「設問 29 シラバスに予習・復習についての記載」について、知っていると回答したのは 87.5%で、知らないと回答したのは 11.9%でした。昨年度と比べると知っているの比率が 10.3%増加しました。

「大学としての対応・改善策」

大学全体として早期に対応を検討したいのが「大学生生活の悩み」です。今回の調査で約 8 割の学生に何らかの悩みがあることが分かりました。悩みの理由として比率が高いのが「勉学や成績のこと」「進路や就職のこと」で、いずれも半数程度の学生が悩みの理由に挙げていました。相談相手はチューター以外の大学関係者の比率が低いいため、チューター教員からの声掛けだけでなく、スチューデントサポートセンターやキャリアサポートセンターでの相談体制を整えることも検討していきます。

2. 学生生活アンケート事務部門の結果について

《アンケート結果の分析と対応・改善策》

図書館 設問 30～35

その他で意見のあった開館時間については、学生の利用状況から勘案すると現状のままで支障はないと考える。

また利用状況において一定期間（試験期間中）に利用が集中していると思われるが、座席数を増やすことは難しいので 2 階のグループワークスペースの有効利用を考えていく。タブレット利用の学生も多いので利用端末を順次増やしていきたい。

キャリアサポートセンター 設問 36～40

回答者 311 名中、就職対象学年である 4 年・6 年（薬学科のみ）は 57 名で全体の 18%である。

キャリアサポートセンターでは、面談希望者（履歴書添削、面接対策、各種相談）は事前予約制となっており、予約者の学年は就職対象学年が多くを占めると考えるが、設問 36 で「利用したことがある」と回答した 108 名と設問 2 の回答者の学年を比べると、就職対象学年以外の利用も多いことが分かる。

設問 37. 38 の利用目的・達成度については、就職や進路の相談、求人情報、履歴書添削等、就職活動に直結する内容での利用が圧倒的に多い。また、「目的がなかったが行ってみた」や「スタッフとおしゃべりで」といった回答も一定数あり、キャリアサポートセンターが気軽に足を運べる場となっている。

今後も就職対象学年のみならず、全ての学生が気軽に利用できるセンターを目指す。

設問 39.40 の設備や資料に関する設問では、受験報告書の充実、求人票閲覧スペースの確保、職員のデスクの配置を見直したことで、スムーズな学生支援を実現させることができた。今後も学生のニーズを取り入れながら就職支援の充実を図る。

学生課 設問 41～43

当課の利用目的は約 67%が「奨学金関係（日本学生支援機構、その他）」となっている。現在、奨学金業務の大半を主担当者が 1 名で対応しているにも関わらず、奨学金に関しての対応（説明）が不十分であるというクレーム等は発生してないと考える。しかし、コロナ禍による影響を受けた学生を支援するための奨学金事業も加わり、これらについては主担当者に任せるのではなく、課員が申請書類の受け付けが対応できるように周知することで、主担当者 1 名に負担をかけることなく、また窓口業務がひっ迫することを回避する状況を作ることができたと考えている。

「わかりにくい」が 8.7%の数値として表れている。当課では重点目標として、①安定した傾聴力 ②課題の発見力 ③的確な判断・情報発信力という「3つの力」を各人が意識して学生対応に臨むことを確認している。窓口、電話、ユニパ等においては理解しやすい内容の発信が必要である。

また「ユニバーサルパスポート」に掲載した内容については共有サーバーにタイトル・発信日などを付して収納している。類似例や突発的な案件に対しては、これら蓄積したデータに基づき、どのように対応するか（どのように対応したのか）？を確認したうえで、より一層理解しやすい内容に構築して発出するように継続して取り組んでいきたい。

教務課 設問 44～50

【設問 44：教務課の窓口業務の内容】については、21.9%の学生が「ほとんどわからない」「全くわからない」と回答しているが、前回アンケート回答 25.7%から若干であるが改善しており、理解が深まったと考えられる。

【設問 45：利用状況】については、84%（前回 77.8%）の学生が「利用したことがある」との回答を得ており、利用実績（無回答を含む）が無い 16%（前回 22.2%）へのアプローチが課題となるが、総じて改善傾向にあることが伺える

【設問 46：利用目的】については、履修や成績、追・再試験や各種手続き等が前回アンケートと同様に大半を占めていた。

【設問 47：卒業要件、資格要件等の確認】については 81.4%の学生が「確認している」（前回 79.4%）、16.7%の学生が「確認していない」（前回 20.6%）となっており、前回よりは確認している学生が増えているが、16.7%の学生が確認作業を行っている現状について、真摯に受け止め、入学年次から最高学年への全体の周知（成績確認及び履修登録時における、各種要件の確認）をしていきたい。

【設問 48：ユニバーサルパスポートの利用頻度】については、「メール配信のみの確認」を含め、大半の学生が利用している。前回のアンケートについては、20.6%の学生が「確認していない」と回答していたが、今回は 1.3%となっており、学生のユニバーサルパスポートの利用率は向上している。

【設問 49：授業時間以外の学習場所】については、24.8%が「図書館」、以下「空き教室」「演習室」「学科指定自習室」で学内においておおむね 90%の学生が学習を行っている現状である。今後より良い学習スペースの確保等、検討課題としていきたい。

【設問 50：履修相談先】については、67.8%が「友達」、39.2%が「ゼミ・チューター、他の教員」となっているが、「誰にも相談しない」が 13.2%前回回答 17.1%からは下がってはいるが、分からないまま放置している可能性が懸念される。また、「教務課」と回答した学生は 1.9%前回 3.6%より相談%は下がっている。

大学全体 設問 51～54

〈設問 51. 大学内において、気づいたことがありますか？〉

回答のあった 311 名の学生中 40 名が気づいたことがあると回答した。

「ある」と回答した学生の記述内容(気づいたこと)は、施設・設備関係では学内ネットワークの充実を求める意見や学内の冷暖房に関する意見、電灯や機器の故障に関する意見が多かった。令和 3 年度には、学内ネットワークの整備(高速化)やガス空調設備の更新を行い、こうした意見の改善を図った。

その他の意見として、学食やコンビニの営業体制や混雑状況に関しての意見も多かったが、学食やコンビニの運営会社とも協議し、学生からの意見を踏まえた改善を行うように協議を進めた。

〈設問 52. 大学内の照明は暗いと思いますか？〉

回答のあった 311 名の学生中 13 名が暗いと回答した。

「暗い」と思うと回答した学生の記述内容は、時間帯や場所によってはやむを得ない状況(例えば深夜の時間帯や本学の敷地外にあるバス停や通学路など)もあったが、学内の照明に関しては、更なる人感センサーの整備や LED 照明化を進めることで安全面への配慮や改善を行った。

〈設問 53. 大学内でわかりにくいと思う場所がありますか？〉

回答のあった 311 名の学生中 12 名がわかりにくいと思う場所があると回答した。

「わかりにくいと思う場所がある」と回答した学生の記述内容は、普段使用しない他学科の講義棟や教員の研究室に関するものが多かった。学内の掲示内容を変更することや案内板等の表示の改善を検討することで、わかりにくいと思われる場所が少なくなるように努めた。

〈設問 54. こんなものがあつたらいいというものがありますか？〉

回答のあった 311 名の学生中 73 名あつたらいいと思うものがあると回答した。

「あつたらいいと思うものがある」と回答した学生の記述内容は、コンビニの店舗増加、カフェやファーストフード店、銀行や娯楽施設など実現や改善が難しいものに関する意見が多かった。その中でも、ネット環境の改善や自習スペースの増加、ロッカーの増設など実現可能なものに関しては、段階的にでも改善出来るよう、関係部署で協議や検討を行った。

以上、九州保健福祉大学では、アンケート調査による学生の意見を真摯に受け止め、より良い改善が実現出来るよう、今後も協議・検討を進めて行きます。